

雪国観光圏整備計画



雪国観光圏
SNOW-COUNTRY.JP

新潟県・十日町市・魚沼市・南魚沼市
湯沢町・津南町・みなかみ町・栄村

雪国観光圏整備計画書

目 次

1	基本的事項	1
①	観光圏の区域	1
②	滞在促進地区の区域	9
③	観光圏整備事業の実施体制	12
④	観光圏整備計画の目標	15
⑤	計画期間等	16
⑥	住民その他利害関係者の意見反映措置	16
2	観光旅客の来訪及び滞在促進に関する基本方針	17
3	観光圏整備事業の概要	20
4	協議会に関する資料等	21
5	その他市町村及び県が必要と認める事項	21

添付 資料編

平成25年2月策定

1 基本的事項

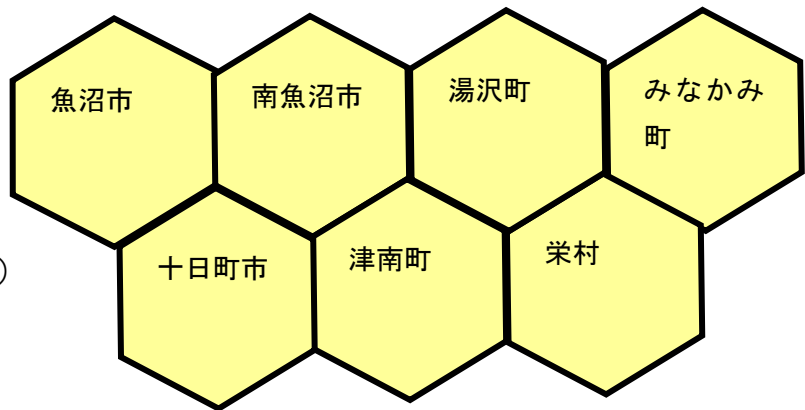
① 観光圏の区域

(1) 観光圏の区域

本計画においては、新潟県の三魚沼地域の魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町および群馬県みなかみ町、長野県栄村の7市町村を圏域とする雪国観光圏を形成する。

【雪国観光圏の構成市町村】

- ・ 十日町市
- ・ 魚沼市
- ・ 南魚沼市
- ・ 湯沢町
- ・ 津南町
- ・ みなかみ町（群馬県）
- ・ 栄村（長野県）



(2) 圏域の特性

(2-1) 位置および交通

★観光的視点から見てアクセス交通の利便性が高い

当圏域には、JR上越新幹線（乗降駅2箇所）、高速道路関越自動車道など、めぐまれた高速交通網が整備されている。これによって越後湯沢駅を中心に、首都圏とは2時間弱で結ばれることになり、十分に日帰り観光も可能となってきている。したがってこの地域に滞在するための居心地のよい魅力を、いかに形成していくかが今後の大きな課題である。

交通手段		特性等	首都圏から
鉄道	JR上越新幹線	越後湯沢駅、浦佐駅の2駅がある	湯沢駅まで東京駅から70分
	その他の鉄道網	JR上越線、飯山線、只見線、ほくほく線	
道路	高速道路	関越自動車道：湯沢、塩沢、六日町、小出IC	練馬ICから約3時間
	主要国道	17号、117号、他に252号、253号など	



(2-2) 雪国観光圏の観光資源特性

★ 雪国の自然および雪国の原風景＝豊かな自然と景観を有する山岳・河川

この地域の山々の深い森林は雪を蓄え、そこから流れ出る水は清く、渓谷は深く、人々の侵入を阻んできた。山は上信越国境の谷川連峰や苗場山などがあり、日本百名山に名を連ねる峰も多く登山の人気も高い。

また、日本一の大河信濃川やその支流魚野川が圏域の軸線となるように流れ、流域には扇状地や段丘が発達し人々の生活を育んできた。このような雪と大地は独自の原風景を形成している。

資源と分野	優れた景観および自然系の観光資源	関係市町村等
山岳・高原およびその景観	谷川連峰	湯沢町、みなかみ町、南魚沼市
	苗場山	栄村、津南町、湯沢町、十日町市
	巻機山と越後三山	南魚沼市、魚沼市
	関田山系	十日町市、津南町、栄村
	尾瀬（魚沼ルート、水上ルート）	魚沼市、みなかみ町
自然環境（河川湖沼も）	魚野川と支流および源流	湯沢町、南魚沼市、魚沼市
	信濃川と沿岸の段丘	栄村、津南町、十日町市
	利根川とその源流	みなかみ町
	赤谷湖	みなかみ町
	三国川ダム(しゃくなげ湖)とその周辺、五十沢キャンプ場	南魚沼市
	奥只見湖と奥只見シルバーライン	魚沼市
	清津峡	十日町市、湯沢町
	秋山郷の渓谷	津南町、栄村
森林・高原	苗場山 小松原	津南町
	平ヶ岳、尾瀬	魚沼市
	銀山平	魚沼市
雪を活かす	各地のスキー場	全市町村
	雪室、雪中貯蔵	十日町市、南魚沼市、魚沼市

★「雪国と歴史文化」の大切な観光の資源

日本有数の豪雪地として知られる当圏域は、小説「雪国」によって世界的にも知られている。雪の季節は、「スキー」をはじめとした冬季のレジャー観光地として関東を中心に多くの人を集めているが、それ以外の雪そのものの活用は観光も含めてまだこれからである。

地域には日本海側特有の気候を背景にこのような雪深い地区で人の住むところとしては世界でもまれな地域である。その日本海側の気候特性からブナに代表される落葉広葉樹主体の植生や動物など、また、雪は人々の生活文化にも大きな影響を与え特有の文化を形成してきた。雪解け水や雪国の気候がコシヒカリのようなおいしい農作物やおいしい日本酒の醸造を可能としており、人々がそこに生きる技と力を育んできた。

これに加えて、小説「雪国」はノーベル賞作家川端康成によって湯沢（高半旅館）に滞在して書かれたもので、アジア各国の教科書をはじめとして海外に広く紹介されており、雪国のイメージは国内のみならず外国人にもロマンを与えている。

近年は、これに加えて越後妻有トリエンナーレが定期的に催されその作品群も観光的な資源の一つとして、また地域づくりの素材として注目されている。

★街道（歴史文化）

街道は関東上州方面に至る「三国街道」が有名であり、信濃川沿岸は「善光寺街道」（飯山街道～北国街道につながる）が信濃とつながっていた。他に清水峠を越え関東に至る道や、秋山郷を經由して草津に至る草津街道などもあった。

雪国(SNOW COUNTRY)が意味するもの



ノーベル文学賞作家川端康成の代表作「雪国」世界120カ国で翻訳され、日本人らしい繊細な情景美は世界的に高く評価されている。

世界的な豪雪地として知られる三国・魚沼地域。日本海からの水分を含んだシベリアからの寒気は谷川連峰によって、この地域に大量の雪を降らせる。雪によってもたらされる豊かな自然環境、雪と共存してきた生活文化、そして雪によって彩られる幻想的な世界。

世界に類がないこの自然環境こそ日本が誇れる観光資源であると考えます。

雪があるから、豊かな水がある。豊かな水があるから、良質な農産物が生まれる。天然の冷蔵庫が作る良質な酒や発酵食品。季節の変化がもたらす雪国ならではの山の幸雪の中で織り、雪の光で晒す紬製品。豪雪が雪国文化を創り出す。

分野	観光資源およびその要素	関係市町村
芸術文化	文学：川端康成「雪国」、与謝野晶子、鈴木牧之「北越雪譜」「秋山記行」、良寛、宮柗二、山岡荘八「徳川家康」、富岡惣一郎	湯沢町、南魚沼市、みなかみ町 魚沼市、十日町市、津南町、栄村
	美術：大地の芸術祭、星譲一	十日町市、津南町
	写真と絵画	全域で
	彫刻：石川雲蝶	魚沼市、南魚沼市、湯沢町
	音楽：フジロックフェスティバル	湯沢町
歴史と交流	上杉謙信、直江兼続	南魚沼市、湯沢町、みなかみ町
	三国街道	魚沼市、南魚沼市、湯沢町、みなかみ町
	清水峠：謙信尾根等歴史の道	南魚沼市、みなかみ町
	秋山郷と草津街道	津南町、栄村
	縄文遺跡、国宝火焰型土器（笹山遺跡）	十日町市、津南町
	河川交易(信濃川、魚野川)	十日町市、津南町、栄村 魚沼市、南魚沼市
農山村文化	雪国の暮らしと知恵（生活、住まい、食べ物、雪室） 各民俗資料館	全域の市町村
三国街道	峠	湯沢町、みなかみ町
	二居宿本陣跡 富沢家(史跡)	湯沢町
	脇本陣跡 池田屋(県指定史跡)	湯沢町
	永井宿	みなかみ町
	猿ヶ京関所跡	みなかみ町
	塩沢の街なみ（雁木）	南魚沼市
	堀之内方面	魚沼市
十日町街道	善光寺街道	十日町市、津南町、栄村
松之山街道	高田平野から魚沼を通じて関東へのルート、文化庁「古道百選」（1996年11月）	十日町市
草津街道	秋山郷	津南町、栄村
JR 上越線	ループ式 トンネル	湯沢町、みなかみ町

★温泉観光地

圏域には各市町村すべてにそれぞれ温泉地や温泉施設がある。古くから開けた温泉地としては、湯沢温泉、松之山温泉、大湯温泉などがあり、天和元年（1681）の湯銭運上の記録として、大湯、湯沢、栃尾又、松野山の4箇所の記録が残されている。

温泉は滞在の大きな魅力であり、この地域の温泉を最大限に売り込むことが、滞在を促進することにつながる。またそれのみでなく他の観光的魅力をいかに付加するか、滞在しても満足度ある観光をどのように形成していくかが大きな課題である。個々の旅館ホテルで展開するのではなく滞在促進地区や、雪国観光圏域全体でお客様の満足するメニューを形成していくことを目指す。

圏域の主要温泉地	関係市町村
湯沢温泉（湯沢神立、Mt 苗場、湯沢土樽各エリア）	湯沢町
六日町温泉郷、浦佐温泉、上野鉱泉	南魚沼市
大湯温泉、栃尾又他の湯之谷温泉郷	魚沼市
松之山温泉、当間高原地区、十日町温泉郷	十日町市
津南温泉郷、秋山郷	津南町
秋山郷、北野天満温泉、中条温泉	栄村
水上温泉郷、猿ヶ京温泉	みなかみ町
そのほかにも温泉宿泊施設や日帰り型の温泉施設は圏域に多い	全市町村

次頁に観光資源の分布図を示す。

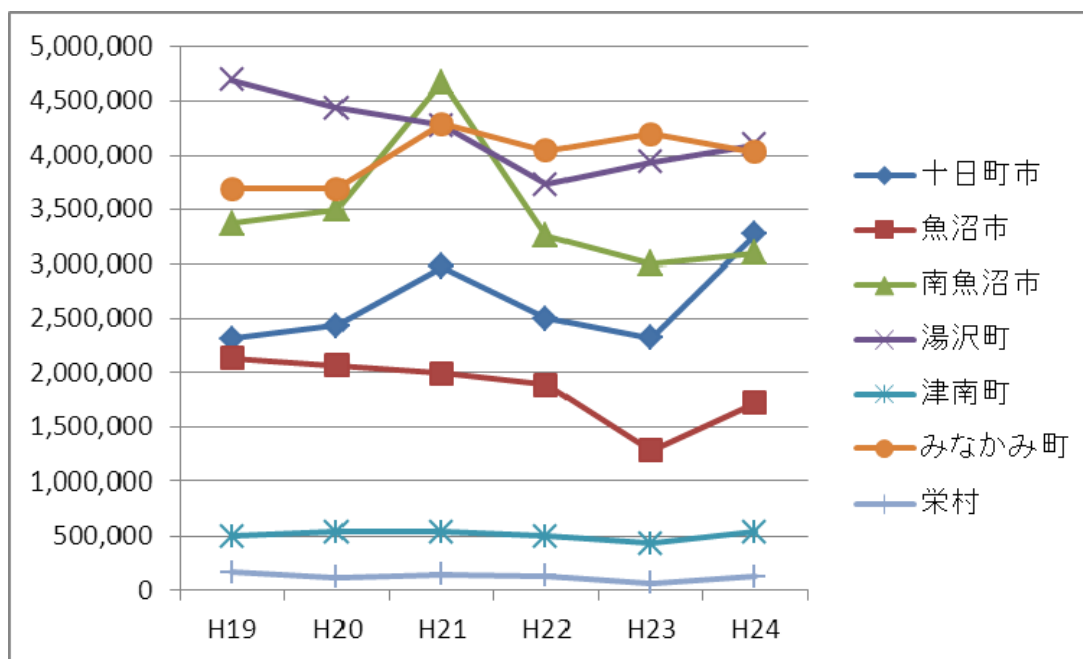
【観光の基礎データ】

圏域市町村の観光入込み動向

市町村	H19	H20	H21	H22	H23	H24
十日町市	2,317,120	2,439,340	2,976,740	2,500,447	2,323,000	3,268,976
魚沼市	2,135,860	2,071,050	1,994,610	1,886,252	1,280,682	1,720,000
南魚沼市	3,373,640	3,493,910	4,680,980	3,258,480	3,001,480	3,100,000
湯沢町	4,701,370	4,434,600	4,277,100	3,733,100	3,935,500	4,100,000
津南町	503,700	540,650	542,470	498,080	435,410	543,840
みなかみ町	3,691,259	3,689,000	4,287,957	4,045,344	4,195,016	4,029,000
栄村	170,120	121,730	144,644	136,614	66,425	125,650
合計	16,893,069	16,790,280	18,904,501	16,058,317	15,237,513	16,887,466

出典：新潟県観光動態の概要、みなかみ町の統計資料、各市町村統計資料

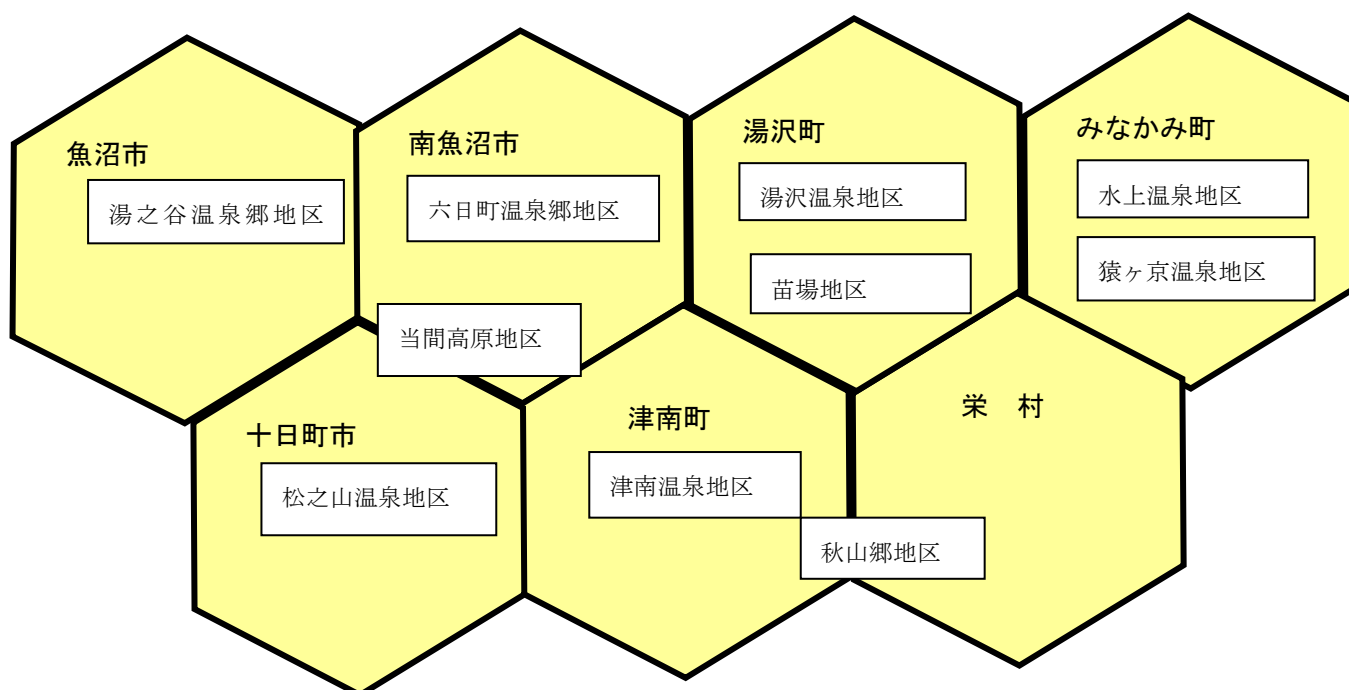
群馬県観光客数消費額調査、長野県観光地利用者統計調査



自然災害や大河ドラマの影響によって、変動幅が大きい期間となっているが、平均値としては、1,680万人程度となっている。

② 滞在促進地区の区域

当圏域の滞在促進地区を以下の通り設定する。選定にあたっては観光宿泊施設の集積が高く、滞在促進事業に積極的に取り組む地区を中心とした。圏域全体は広くそれぞれの地区における温泉地なども古くから形成されてきており、宿泊滞在型観光地として今後もさらにその魅力を高めていくことをめざす。



【滞在促進地区の特性】

滞在促進地区	所在地と範囲	宿泊施設数	特性と選定理由
湯之谷温泉郷地区	新潟県魚沼市葎沢、折立、栃尾又、大湯、銀山平	27	古くから知られた湯治場や大湯など集積ある温泉地が点在している。山間の温泉地として豊かな自然のほか、山岳、スキーや越後側からの尾瀬の入り口としても人気が高い。
六日町温泉郷地区	新潟県南魚沼市六日町	18	六日町駅を中心として点在するが山や川など豊かな自然が近くにあり、また雪国体験なども売り物となっている温泉地である。
湯沢温泉地区	新潟県湯沢町湯沢、神立	77	新潟県有数の温泉地で温泉旅館やホテルの集積度が高い。小説雪国の舞台としても有名。
苗場地区	新潟県湯沢町苗場	71	冬のスキーの集客力は高いがそれ以外にも登山や毎夏のフジロックコンサートでも有名である。ペンションなど宿泊施設の集積度が高い。
松之山温泉地区	新潟県十日町市松之山湯元	16	700年前に開湯といわれる天然自噴の古い山間の知るひとぞ知るひなびた温泉場である。周辺にはブナ林など自然豊富な地域でもあり近年は妻有トリエンナーレや越後田舎体験など新たな観光との連携も始まっている。
当間高原地区	新潟県十日町市当間	1	十日町市と南魚沼市に魚沼丘陵をまたいで広がる地域で冬のスキーのほかに夏の農林業体験などをプログラムとして行う民宿・ペンションも多い。
	新潟県南魚沼市大沢	50	
津南温泉郷	新潟県津南町下船渡	12	国道405号と117号沿いに点在する津南町にある温泉を総称して津南温泉郷と呼んでいる。津南駅前にある津南駅前温泉を中心に、秘湯が点在している。溪流釣り、ニューグリーンピア津南のリゾート施設やスポーツ施設のほか、付近観光スポットでは、紅葉の名所秋山郷、全国名水百選の龍ヶ窪などがある。

秋山郷地区	新潟県津南町結束	2	鈴木牧之が桃源郷と呼んだ秋山郷は、信濃川支流の中津川上流域に長野県と新潟県にまたがる狭谷地帯。深い谷と迫る山肌そして深い雪の春夏秋冬の豊かな自然と縄文の昔から受け継いだ歴史・文化は、旅するものを魅了する。宿泊施設がその渓谷沿いの温泉地に点在している。
	長野県栄村	22	
猿ヶ京温泉地区	群馬県みなかみ町猿ヶ京、湯宿、法師、川古	48	江戸時代には笹の湯・湯島温泉と呼ばれ、三国街道沿いで賑わった。しかし昭和33年、ダム建設のために温泉街を移し、名前も猿ヶ京温泉と改め、近代的なホテル街へと生まれ変わった。谷川連峰や苗場山などの山岳の自然と街道文化の特徴ある温泉地である
水上温泉地区	群馬県みなかみ町湯原、谷川、藤原、湯檜曾、上牧、奈女沢	134	全国有数の温泉地として知られ、奥利根渓谷の温泉地で宿泊施設の集積度も高い。近年、谷川連峰はじめ登山やトレッキングに加えてラフティングなどアウトドアスポーツの場として訪れる人も多い。

③観光圏整備計画の実施体制

連携と推進の体制「雪国観光圏推進協議会」

【経過】

- 平成19年 3月 6日 平成21年10月～12月のディスティネーションキャンペーン開催地域に新潟県が決定された旨、JR 東日本から通知
- 平成19年 4月26日 平成21年のNHK大河ドラマに「天地人」が決定
- 平成19年10月29日 国土交通省総合政策局観光地域振興課にて、総合政策局観光部門での平成20年度概算要求等に関する説明会が開催され、広域観光圏形成について説明がある。
- 平成19年10月31日 2009新潟県大観光交流年推進協議会が設立される。
- 平成20年 2月28日 湯沢温泉旅館組合主催にて「広域観光連携シンポジウム「ぐるっと雪国」」が開催される。湯沢町、南魚沼市、魚沼市、十日町市、みなかみ市、津南町、栄村の行政ならびに民間関係団体が出席され、広域観光連携の必要性の共通認識をもつ。
- 平成20年 3月～4月 雪国観光圏設立に向けて、関係団体等への説明や調整を実施
- 平成20年 5月13日 第一回設立準備委員会を開催。広域観光圏域の行政や民間団体が参加し、観光圏整備事業の概略と協議会設立に向けての説明を行う。
- 平成20年 5月29日 第二回設立準備委員会を開催。
- 平成20年 6月20日 事業推進委員会予定者の顔合わせ会を開催。事業概略についての役割を確認する。
- 平成20年 7月11日 宿泊業者を対象にした観光圏整備事業実施計画説明会を開催。
- 平成20年 7月30日 関係市町村の観光圏担当課長会議を開催。
- 平成20年 8月 7日 雪国観光圏推進協議会設立総会開催
- 平成21年 2月10日 雪国観光圏推進協議会第2回総会開催
- 平成21年 9月 2日 雪国観光圏推進協議会第3回総会開催
- 平成22年 2月10日 雪国観光圏推進協議会第4回総会開催
- 平成22年 4月23日 雪国観光圏推進協議会第5回総会開催
- 平成23年 1月27日 雪国観光圏推進協議会第6回総会開催
- 平成23年 5月17日 雪国観光圏推進協議会第7回総会開催
- 平成24年 2月 7日 雪国観光圏推進協議会第8回総会開催
- 平成24年 5月30日 雪国観光圏推進協議会第9回総会開催

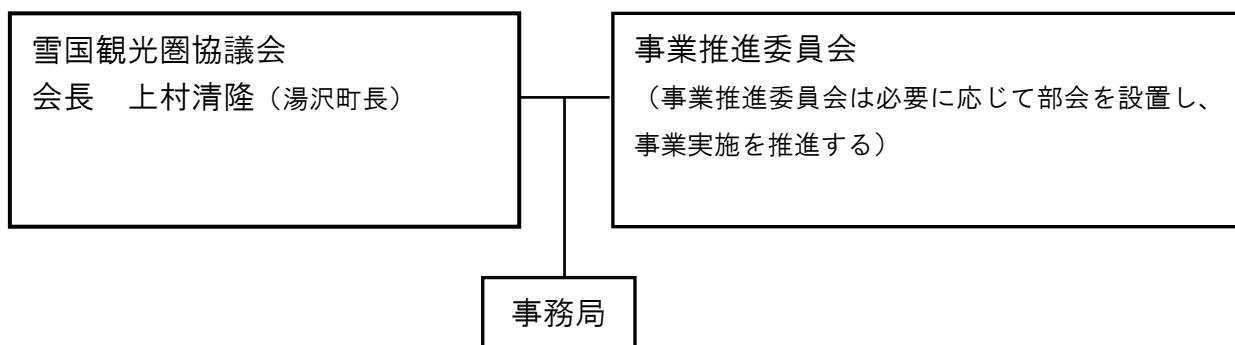
【推進体制】

・協議会役員

役職名	所属(職)名	氏名
会長	湯沢町長	上村 清隆
副会長	南魚沼市長	井口 一郎
〃	十日町市長	関口 芳史
理事	みなかみ町長	岸 良昌
	栄村長	島田 茂樹
	魚沼市長	大平 悦子
	津南町長	上村 憲司
	みなかみ町観光協会長	須藤 温
	魚沼市観光協会長	三友 泰彦
	十日町市観光協会長	村山 義政
	南魚沼市観光協会長	小野塚 昭治
	NPO法人雪の都GO雪共和国理事長	相沢 博文
	松之山温泉組合長	小野塚 賢
	湯沢温泉旅館商業協同組合（湯沢温泉旅館組合長）	富井 松一
監事	湯沢町商工会経営支援室長	熊木 和廣
	塩沢商工会経営支援室長	貝瀬 久

- ・事務局：湯沢町
- ・事業推進委員会：ワーキングチームとして会員及び任意の参加を得て編成する

【雪国観光圏組織体制図】



【協議会構成員 名簿】

(平成 25 年 2 月 21 日現在)

区分	会員	区分	会員
行政	新潟県産業労働観光部	民間団体	NPO 法人 南魚沼もてなしの郷
	新潟県南魚沼地域振興局		NPO 法人 ほくほく村
	新潟県魚沼地域振興局		NPO 法人 雪の都 GO 雪共和国
	新潟県十日町地域振興局		湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会
	十日町市		NPO 法人 ゆ
	魚沼市		松之山温泉合同会社 まんま
	南魚沼市		NPO 法人 かねさま蕎麦会
	湯沢町		湯沢温泉旅館商業協同組合
	津南町		松之山温泉組合
	みなかみ町（群馬）		大湯栃尾又温泉旅館協同組合
	栄村（長野）		津南町旅館組合
民間団体	新潟県旅館組合		塩沢商工会
	みなかみ町観光協会		南越後観光バス株式会社
	えちご魚沼観光開発協議会		森宮交通株式会社
	一般社団法人魚沼市観光協会		合同会社からいすけ本舗
	一般社団法人十日町市観光協会		東日本旅客鉄道株式会社新潟支社
	津南町観光協会		六日町観光協会
	南魚沼市観光協会		株式会社 エンゼル
	湯沢町観光協会		株式会社 ひまわり
	湯沢町商工会		町ベルエージェント 株式会社
	みなかみ町商工会		NPO 法人 越後妻有里山協同機構
	栄村観光協会		

資料編に協議会規約を添付する。

【雪国観光圏事業の継続】

7市町村及び関連団体で「雪国観光圏推進協議会」を設置し、平成25年度から観光地域づくりプラットフォームとして「一般社団法人雪国観光圏」を位置づけ、支援する体制をとる。事業実施等に係る受入整備等について一般社団法人雪国観光圏と連携を図り、スムーズな事業実施が行えるようにする。

④ 観光圏整備計画の目標

雪国観光圏が目指す観光振興の目標を以下に設定する。国際観光対応と滞在型観光促進を目指す指標として以下の5つの目標値を掲げる。

【目標設定のねらい】

1. 外国人観光客に対しては、雪の魅力をアピールするのみでなく圏域で豊富な温泉を売り込み、田園風景や棚田、ブナ林等の原風景を背景とする地域内の資源を生かして夏冬通じた誘客を図る。
外国人観光客のこの圏域での入込み数、日本人観光客も含む滞在日数に関しては、今年度から圏域で手法を統一して実施する。
2. また日本人客に対しても1泊型の観光地からの脱却を図るため、滞在者を満足させる活動メニューの充実を図りその滞在促進を図る。
3. 当圏域では観光からの地域づくりと人づくりを進めていく観点から、その基礎データとして観光客の満足度を目標に加える。
4. 市民による地域づくりと雪国観光圏整備事業連動の検証システムを確立する。協議会においてはその中に一般市民参加の部会を設定して、市民を巻き込んだ地域ぐるみの受け入れ推進体制の確立を目指す。これにより観光圏整備の活動が地域づくりと連動していくことを市民の目で検証できるシステムを確立しその継続的改善を図る。

【雪国観光圏整備計画の目標】

いずれも基準年は平成25年度である。

1. 観光圏全体の入込み客数を増やす。5年後には5%増の目標。
2. 観光圏全体の外国人入込み数の拡大をめざす。5年後には2倍の目標。
3. 観光圏全体の宿泊者数の増加をめざす。5年後には5%増の目標。
4. 宿泊滞在者の平均宿泊日数の延長をめざす。5年後の連泊者の伸び率20%以上の目標。
5. 観光客の満足度を高める。5年後の満足度86%以上の目標。

	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	備考：目標値
観光客数	人	17,000,000	17,212,500	17,425,000	17,637,500	17,850,000	伸び率5%
外国人客	人	80,000	100,000	120,000	140,000	160,000	2倍
宿泊者数	人	3,420,000	3,465,000	3,510,000	3,555,000	3,600,000	伸び率5%
連泊者数	人	85,000 (8,500)	89,250 (8,925)	93,500 (9,350)	97,750 (9,775)	102,000 (10,200)	伸び率20%
客の満足度	%	85.2 (85.2)	85.4 (85.4)	85.6 (85.6)	85.8 (85.8)	86.0 (86.0)	86%

()内は外国人客数

⑤計画期間等

【計画期間】

計画期間は平成25年度から平成29年度までとする。

【計画の見直しについて】

計画は年度ごとに協議会において、観光地域づくりプラットフォームである一般社団法人雪国観光圏と協議・再度確認し、必要があれば見直し・変更をかけ継続的な改善を図る。新潟県知事及び構成市町村長が共同で変更した計画は協議会の協議・承認を得て、北陸信越運輸局を通じて国土交通大臣及び農林水産大臣に送付する。

また変更した計画は公表するものとする。

⑥住民その他利害関係者の意見反映措置

観光地域づくりプラットフォームである一般社団法人雪国観光圏への委託事業として、コンサルティング事業があり、この中で、住民アンケート調査が行われる。

この調査結果に基づき作成されるマスタープランを、自治体行政の動きへ反映させる。

2 観光旅客の来訪及び滞在促進に関する基本方針

(1) 地域ならではの「強み・価値」と言える地域資源とは

国内外において、他の地域と競争できる当該地域ならではの強み・価値となる地域資源とは何か。

※地域資源：自然、景観、歴史・文化、風習、暮らしなど。

<p>豪雪地帯だからこそその雪の恵み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国最大の豪雪地帯であり、縄文時代から長期にわたって人々が生活を営んできた地域である。鈴木牧之の「北越雪譜」に象徴されるように、雪との長い付き合いから雪の特性を良く知り、雪と闘いながらも雪を受け入れ、その特性を活かしながら暮らしに役立たせる知恵と文化を育んできた地域である。 ● 雪が降ることによって大気が澄み、良質な水資源を生み出し、更に雪という天然ダムによって豊富な水量が安定的に確保できからこそ、良質な米や野菜がとれ、日本を代表する銘酒が多く存在する。当該地域にとって雪は、産業と暮らしを支えているのである。当該地域の人々にとって雪は、難儀な生活を余儀なくされる重圧と感じる一方で、雪があるからこそ得られる恵みと喜びも感じているのである。
<p>トンネルがつないだ日常と非日常</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1931年に全長9,702メートルの清水トンネルが開通した。この路線の開通により陸の孤島が一気に開け、また当時のなかなか人が訪れることがなかった雪国に大勢の人が立ち入るようになってきた。 ● 上越国境をつないだ清水トンネルは、川端康成の小説「雪国」の冒頭で描写されたように、トンネルを境に積雪地帯から無積雪地帯へと景色が一変する地域となっている。
<p>湯治文化と多種多様な泉質</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該地域（観光圏内）には半径50キロ以内にすべての種類の泉質が存在する。 ● 室町時代から湯治が誕生している地域である。 ● 農繁期が終わると、地域住民は湯治に出かけ体を休めた。また温泉を核として、人と人とが交流し、旅人同志がさまざまな情報交換を行った場所でもある。

(2) 競合地域と差別化でき、かつ「日本の顔」とも言える価値とは

(1) を踏まえ、競合地域と差別化でき、「日本の顔」と言える地域ならではの価値とは何か。

日本の顔となる 価値・その1

世界有数の豪雪地帯

● 「豪雪」発祥の地

「豪雪」という言葉は従来からあった日本語ではなく、戦後この地方における毎年の大雪を報道しようと、報道陣が表現したものが日本語として定着したものであり、「豪雪」と命名された発祥の地とされている。

● 北海道・東北地方に類を見ない広範囲に及ぶ4mないし3mの豪雪地帯

対馬海流の影響により、日本海側の地方は冬季、日照時間が短く、雨や雪の日が多い日本海側気候であり、世界有数の豪雪地帯となっている。その中でも当該観光圏の地域は、「特別豪雪地帯」に指定されている地域の中でも北海道や東北地方にも類を見ない積雪量を誇り、積雪は例年3メートルにも及び、多い年は4メートルを超える。これは将に国内随一の豪雪地帯であり、つまりは世界一の豪雪地帯ということになる。

日本の顔となる 価値・その2

閉ざされた豪雪地帯だからこそ生まれた雪国文化

● 国内随一の豪雪地帯だからこそ育まれてきた、縄文時代から続く農耕を中心とした雪国文化

約半年にわたって大地が厚い雪に覆われる当該地域は、一年を積雪期(セッキ)と無雪期(ナツパ)に二分される。積雪期間中、雪に埋もれた暮らしを余儀なくされるが、二分される自然環境に対応した生活様式を身につけ、次の季節を常に意識し、生活全般の備えを怠らない。雪と闘いながらも雪を受け入れ、その特性を利用しながら暮らしに役立たせる知恵と文化を育んできた。

● 雪国文化の中でも、暮らしの中心として存在する“囲炉裏信仰”

約半年もの間、積雪期となる雪国の暮らしにおいて、縄文時代の竪穴住居の時代から屋内生活の中心にあったのは囲炉裏である。古来から囲炉裏は、神の宿る神聖な場所とされ“囲炉裏信仰”が残されている。人々はそこで木を燃やして火を焚き、その熱を調理に利用し、暖をとっていた。囲炉裏の炎は闇夜を照らし、その周囲で手仕事に励み、湯気の立つ熱いゾーセエ(雑炊)を鍋から分かち合い、一家団欒の場となり、また客をもてなす場でもあった。囲炉裏端は、親から子、そして孫へと様々な知恵や知識を伝える場であり、ムラの歴史や家の成り立ち、トントン話(昔話)や伝説を語り継ぐ場でもあり、雪国の精神文化が育まれてきた場所でもある。

● 閉ざされた豪雪地帯だからこそ地域によって異なる文化

当該地域は三国街道沿いの村々、温泉街、その他の農山村地域において、自然との付き合い方や暮らしぶりにそれぞれ違いがある。とりわけ、三俣、二居、浅貝の三国三宿では昭和41年に国道17号線が完成し、無雪化するまでの間、冬は文字通り陸の孤島として、難儀な生活を余儀なくされており、閉ざされた陸の孤島だからこそ地域によって異なる文化が存在する。

日本の顔となる 価値・その3

国境の長いトンネルで景観が一変する雪国の世界

● 川端康成が描いた、トンネルの向こうにある雪に閉ざされた世界「雪国」

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。」
上越国境の景観がトンネルによって一変する様を見事に表現した、川端康成が小説「雪国」で描いた世界こそが、この地ならではの雪国の世界である。特別豪雪地帯に指定されているような豪雪地帯と言われる雪国は数多くあるものの、トンネルを境に積雪地帯から無積雪地帯へと景色が一変する地域は他には類を見ない雪国の世界と言える。

【基本方針】

以上の圏域の特性をから、以下に雪国観光圏の目指すものを基本方針として4つの柱にまとめた。

1 「雪を通じた国際観光の展開」

世界的にも珍しい、人の住む豪雪地帯である当圏域において、この恵まれた自然環境と「雪」という天からの恵みを、次の世代をになう子ども達への贈り物として（雪の降る環境を）残すことが、地球環境を護ることにつながる重要な役割をもつものとして位置づけ世界にアピールしていく。

2 「雪国らしい新たな観光産業の形成」

雪に育まれた自然と雪が育んだ衣食住すべての生活文化を観光の資源として見直し、新たな観光のブランド形成として雪国観光の振興を図る。これは単なる観光の振興のみでなく観光に関連する農業等地域産業すべてが連動して初めて観光が成立するものとして捕らえ、地域産業の全体のグレードアップと地域経済の活性化を目指すものである。

3 「滞在型観光の促進」

圏域にある温泉地や暖かい人情と厳しくもやさしい自然を活かして、訪れてよし、住んでよしの地域づくりをめざした滞在型観光を促進する。単純な入込み数の増加ではなく、この地域により長く滞在して地域のよさを味わってもらいリピーターを確保する。その先には二地域居住を見据えている。

4 「地域づくり・人づくりの推進」

地域づくりは人づくりとよく言われるように、人の魅力は地域の魅力であり、おもてなしの心を大切に人づくりは観光地づくり・地域づくりの要と位置づけて行政の枠を越えた人々の交流と連携による活動の展開を図る。

また、観光案内情報発信機能の向上、二次交通等の交通条件向上をすすめ、観光からの地域づくりを目指す。

3 観光圏整備事業の概要

(1) ブランド化事業

事業名	ブランド化事業
実施主体	一般社団法人雪国観光圏
実施期間	平成25年度～平成29年度
概要	雪国の文化を残し、体系化して伝えていくことで地域のブランド力を高めていく。

(2) コンサルティング事業

事業名	コンサルティング事業
実施主体	一般社団法人雪国観光圏
実施期間	平成25年度～平成29年度
概要	セミナーや勉強会の実施、認定案内所ならびに事業者向けのガイド人材の育成事業、観光圏を基盤とする中長期整備計画等の策定

(3) プラットフォーム運営支援事業

事業名	プラットフォーム運営支援事業
実施主体	一般社団法人雪国観光圏
実施期間	平成25年度～平成27年度
概要	観光地づくりプラットフォーム「一般社団法人雪国観光圏」の運営支援を行う。

4 協議会に関する資料等

● 協議会規約

5 その他市町村または県が必要と認める事項

観光圏整備事業の前提となる社会資本整備、公共交通活性化、地域再生・地域活性化を目的とする関連事業は以下のとおり。

地区	事業名	事業概要
湯沢町	「ぶらぶら歩きができる町」 (湯沢地区)	湯沢町の表玄関である越後湯沢駅西口の「温泉通り」を「ぶらぶら歩きができる町」をコンセプトに景観や色彩に配慮した落ち着いた街並み、商店街と文化、歴史、伝統の個性あふれる街並み商店街（雪国浪漫を想わせる）を目指して、地元の湯沢温泉通り事業協同組合と湯沢町が事業を進めている。 今後は雪国観光圏の交流拠点になることが期待される。 事業期間 平成24年度～平成29年度
湯沢町	都市再生整備計画事業 (神立地区)	湯沢町のほぼ中央に位置し唯一の中学校がある、神立地区を文教地区と位置付け、中学校と小学校5校を統合した中小一体型校舎や、保育園5園を統合した認定こども園、子育て支援センター等を整備することにより、良好な教育環境や子育て支援体制を整え、子どもたちの未来をつくる安全安心なまちづくりの実現を目指す。また同敷地内に公園、防災備蓄倉庫、非常用自家発電設備などの整備を行い、災害時における避難所及び交流拠点の推進にも取り組む。 事業期間 平成23年度～平成27年度
湯沢町	都市再生整備計画事業 (みつまた地区)	本地区は、全国でも有数のかぐらスキー場を中心とした観光地で、新しい観光交流の場として道の駅地域振興施設整備、観光交流センター整備、スポーツ公園整備、遊歩道整備を行い、地域振興を図る。雪国観光圏の歴史街道「三国街道」の宿場町であり、施設整備をすることにより、滞在促進が期待される。 事業期間 平成22年度～平成26年度
みなかみ町	都市再生整備計画事業 (後閑町組周辺地区)	本地区は、役場・中学校等の主要公共施設のほか、駅前商店街が立地している地域拠点であります。しかし利根川により地域が分断されているため、コミュニティの連携性が悪く防災拠点へのアクセスも阻害しています。このことから、道路

		<p>網等の整備により地域間交流を育み、防災施設へのアクセスの向上と安心・安全を体で感じることのできるまちづくりを図ります。</p>
十日町市 津南町	「大地の芸術祭の里」	<p>越後妻有地域には、大地の芸術祭開催期間以外にも地域の自然、歴史や文化などの地域の魅力を活かした約 200 点の作品があります。さらに、四季折々に多彩な表情を見せる自然と伝統行事や祭りに加えて多彩な事業を行います。</p> <p>事業を進めることにより、雪国観光圏の観光拠点になることが期待されます。</p> <p>事業期間 平成25年度～平成30年度</p>
十日町市	都市再生整備計画事業 (とおかまち地区 ＜第2期＞)	<p>現在策定中の「中心市街地活性化基本計画」に基づいた「新たなにぎわい」に満ちた「魅力あるまちの創造」を目標とし、市の中心市街地を対象に、低未利用の土地や施設を地域交流センターや子育て支援センター、まちなか公民館等として活用し、都市機能集積の推進を図る。</p> <p>事業期間：平成24年度～平成28年度</p>